

介護保険制度の安定的な運営のために 国庫負担割合の引き上げを求める意見書

平成24年度からの介護保険料について、厚生労働省は、65歳以上の保険料が月額平均5,000円を超える」と試算している。また、さらなる保険料の上昇につながる介護職員処遇改善交付金を介護報酬へ反映させることも検討されている。

制度の見直しが実施されれば、高齢者の生活はいつそう厳しいものになり、全国市長会などの地方からも、国庫負担割合の引き上げを求める声が上がっている。

よって、羽村市議会は、国会及び政府に対し、高齢者の負担軽減と介護保険制度を維持し、安定的な運営を確保するため、下記事項の早期実現を強く求めるものである。

記

- 1 政府は、早急に財源を確保し、介護保険財政に対する国庫負担割合を引き上げること。
- 2 平成24年度以降も、介護職員処遇改善交付金を継続すること。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき、意見書を提出する。

平成23年12月22日
東京都羽村市議会議長
瀧島 愛夫

提出先
衆議院議長、参議院議長
内閣総理大臣
財務大臣、厚生労働大臣

平成23年常任委員会

行政視察報告

私たち市議会議員は、特徴ある施策を実施して優れた成果をあげている自治体や団体に学び、羽村市が抱えるさまざまな課題などについて理解を深め、羽村市の行政運営に反映させるために、行政視察や研修会、協議会などを実施し、日々、調査研究を行っています。

今号では、平成23年に実施した行政視察について、常任委員会ごとに報告します。

総務委員会

■研究テーマ
行政運営および事務管理、コミュニケーション、防災・防犯等市民生活の安全について

■視察日・視察先・視察内容
○平成23年11月2日《山梨県北杜市》
▼姉妹都市北杜市議会との議員交流および太陽光発電システムについて（北杜サイト太陽光発電所の施設も見学）
○平成23年11月10日《東京都武蔵野市》
▼災害および防犯・安全対策について



総務委員（左から）：（前列）石居尚郎、橋本弘山、瀧島愛夫、（後列）水野義裕、馳平耕三、門間淑子

経済委員会

■研究テーマ
商工業の振興、観光、都市基盤整備について

■視察日・視察先・視察内容
○平成23年10月17日《埼玉県東松山市》
▼東松山市のまちづくりと区画整理について
○平成23年10月25日《神奈川県藤沢市、横須賀市追浜商店街》
▼湘南藤沢フィルム・コミッションについて
▼商店街活性化への取り組みについて

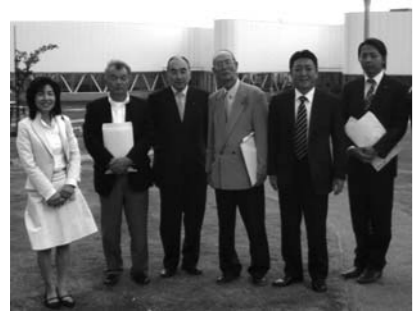


経済委員（左から）：山崎陽一、鈴木拓也、中嶋勝、大塚あかね、富松崇

厚生委員会

■研究テーマ
高齢福祉、介護保険、児童福祉、子育て支援について

■視察日・視察先・視察内容
○平成23年10月4日《羽村市内特別養護老人ホーム「羽村園」、介護老人保健施設「あかしあの里」》
▼特別養護老人ホームおよび羽村市地域包括支援センターの現状と課題について
▼介護老人保健施設の現状と課題について
○平成23年10月17日・18日《新潟県長岡市と「子育ての駅千秋」、上越市》
▼子育て支援施策等について
▼上越市子どもの権利に関する条例の概要および子育てジョイカーについて



厚生委員（左から）：西川美佐保、川崎明夫、濱中俊男、小宮國暉、富永訓正、倉田学

◎委員長、○副委員長

会派

会派とは、政治上の主義や政策を同じくする議員の集まりで、議会活動を行う上での基礎となります。

新政会 市民クラブ 富松 崇② 橋本 弘山⑧ 濱中 俊男⑬ 瀧島 愛夫⑭ 船木 良教⑯ 川崎 明夫⑱	公明党 中嶋 勝③ 富永 訓正④ 西川美佐保⑦ 石居 尚郎⑫ 大塚あかね⑥ 馳平 耕三⑪	日本共産党 倉田 学① 鈴木 拓也⑤ 市民ネットワーク「いきいき広場」 門間 淑子⑰ 羽村 21 水野 義裕⑮	新しい風 小宮 國暉⑩ 世 論 山崎 陽一⑨ ※○の数字は 議席番号です。
--	---	--	--

総務委員会

【実施日】
北杜市・
自然休暇村
11月2日
武蔵野市
11月10日

北杜市 太陽光発電所

「人と自然が躍動する環境創造都市」を基本理念に掲げる北杜市では、「エネルギーの地産地消」をめざし、太陽光発電や水力発電を積極的に導入してきました。

山梨県北杜市

平成18年10月、NEDO技術開発機構が公募した「大規模電力供給用太陽光発電系統安定化等実証研究」の委託先に決定し、N T T ファシリティーズと共同で5年間の実証研究に取り組みました。

実証研究は、

- ① 大容量のパワーコンディショナーの開発・試験・評価

- ② 世界9か国27種類の先進的太陽電池の発電特性の評価
- ③ 環境性に優れた杭工法架台の開発と評価など、多岐にわたる開発や有効性・実用性の検証が実施されました。

太陽電池では、太陽の位置を追いかけながらレンズを使って太陽光を集め発電する「追尾システム」も2種類設置され、評価されました。また、太陽電池の傾斜角度の違いや日陰による発電量への影響も、評価されました。実証実験で得られたデータや技術を基に、大規模太陽光発電所の導入手引書を作成・報告して、平成23年3月、実証実験は終了しました。

同年4月からは、北杜市営「北杜サイト太陽光発電所」として、新たにスタートしています。約600世帯分の発電が可能とのことですが、全量が売電されているそうです。この発電所は、中央自動車道長坂インターチェンジから2kmの地点にあり、車内から一望できます。地権者や市民の協力体制に支えられ、日照時間日本一（年平均の日照時間が2千300時間）をうたう、北杜市の大きな特徴のひとつになっていると実感しました。

←北杜サイトの太陽光パネル



北杜市 羽村市自然休暇村

山梨県北杜市

総務委員会では、姉妹都市である北杜市を訪れ、今後の両議会としての連携のあり方や指定管理者により管理されている「羽村市自然休暇村」の現状を視察してきました。北杜市では、市役所で、市長・議長をはじめ、各常任委員会の委員長等に温かく迎えていただき、今後の両市の議会としての連携のあり方を協議しました。

その中で、今後、両議会で、姉妹都市の議会としてさらに友好関係を深めることがで



↑太陽光パネルについて説明を受ける

武蔵野市 防災安全センター

東京都武蔵野市

東日本大震災を契機に、これまでの防災対策を根本から見直すことが各自治体に求められてきています。

羽村市では現段階において、有事の際は、羽村市役所の東庁舎2階の会議室が対策本部となります。現実的な指揮体制を考えるとさらなる見直しが必要ではないかと、武蔵野市の防災安全センターの視察を決定しました。

このセンターは、平成7年に起きた阪神淡路大震災を契機として、堅牢な災害活動拠点の必要性を認識し、平成19年に建設されました。以前よりあった2階建ての市役所西棟を増築して、8階建てとしたものです。

5階の防災安全センターには、対策本部室、防災情報室、消防団本部室、関係機関連絡室、夜間防災連絡室、事務室など中枢機能が集中しています。特に防災情報システムは、市内の被害状況がわかるように市内4か所に高所カメラが設置されており、防災センターに逐一映像情報が入ってきます。また災害の際には被害情報を収集するシステムも構築されています。

その他、職員招集・災害地理情報・避難所管理・支援助資管理・災害情報提供・気象観測などの各システムも装備。対策本部室では、集めた情報を共有し、刻々と変わる状況をみながら対策本部員や関係機関の長が集まり防災対策を協議できる体制が整えられていました。

視察を終えての実感は、どこまでも実効性を求めている緊張感が伝わってきました。有事を想定した場合、その中心軸となる指揮室体制強化も重要です。羽村市としてもより現実性のある災害対策本部の構築を、現在の羽村に合った方式で急ぐ必要があります。



↑防災安全センターの対策本部室

きるように、議会全体で、相互に結んでいる相互防災協定の内容など、テーマごとの勉強会を重ね交流を深めていくことを確認しました。

その後、北杜市清里にある「羽村市自然休暇村」を訪れ、指定管理者から指定管理となつた後の「自然休暇村」の現状について説明を受けました。

また、施設内部を実際に見て、今後、修繕の必要のある箇所などを確認するとともに、収支の状況について説明を受けました。

清里エリアに来る人が減少していることから、夏のシーズン以外にどう集客するか、北杜市のグラウンドや体育館を借りるためにどう連携を深めなければならないか等について、課題として受け止めました。



↑自然休暇村の厨房も視察